

南の島の郵便局の物語

図1のハガキを御覧下さい。1960年6月13日の波照間島の琉球郵政時の消印付議事堂ハガキ（返信用）です。当時私は17才の高校2年生で1958年9月16日B円からドル12通貨が変更になりドル暫定切手に変わり又その後も天女航空やらB円切手に加刷切手が次々に出ていたが、九州の佐賀では切手商もなく当時一番南にある波照間島局へ在庫の切手類を知らせてくださいと往復ハガキを出しました。その返事で島崎安好局長は丁寧に返事をくれました。当時は南西諸島でカワセの制度はありましたが切手類は購入できず、奥の手で特別返信切手券が10円で3¢の切手購入出きるという制度があり、高校生の私は何十枚も送付して那覇中央局の郵券係へ送付していました。局の方も内地の学生であるからと大目に見てもらって切手を手に入れてました。島崎局長からある日私信が届き、実は沖縄戦で一緒に戦った戦友が佐賀県人で消息を知りたいとの事で名前も記入してあり、私はすぐに地元の佐賀新聞に投稿した処、すぐに新聞に載りその2、3日後本人が私の自宅を訪問され私が局長の手紙を見せたら驚いた様子でしたがすぐに手紙を書くとの事でした。2、3日後局長より手紙がきてその当時の戦友たちの消息がわかり大変感謝されました。それから大学生になるまで文通は続きましたが図2のようなカワセ印カットを数十枚提供下さりました。今となってはこの返信ハガキは珍品だと思っておりますがいかがでしょうか。

秋吉 誠二郎

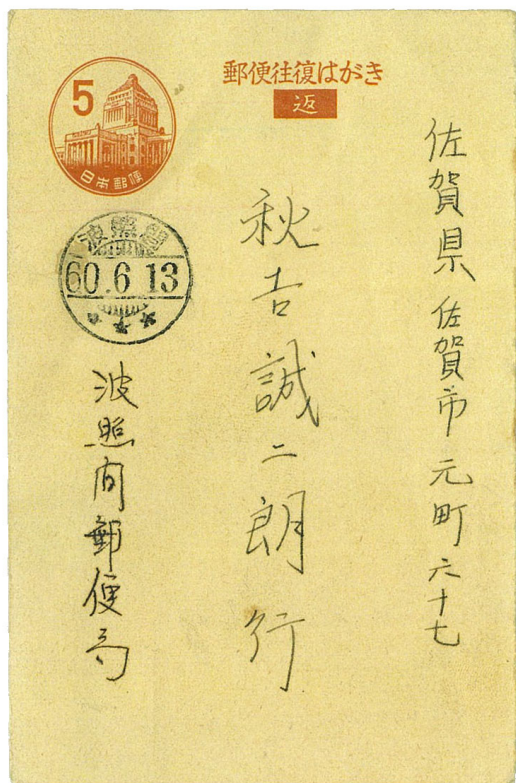


図1



図2